

平成26年度 第2回とよた森づくり委員会 会議録

開催日時：平成26年11月14日（金） 午前9時00分～午後4時00分

開催場所：豊田森林組合本所他

出席委員：岡本 讓 清水 元久 稲垣 久義 小幡満理子  
蔵治光一郎 澤田 幸次 鈴木 洌 湊 裕

以上 8名

オブザーバー：洲崎矢作川研究所主査  
林豊田森林組合専務

事務局出席者：森林課 加藤課長、北岡副主幹、深見担当長  
鈴木主査、赤川主事

（開会時間 午前9時00分）

## 開 会

### ○加藤課長

皆さん、おはようございます。本日はお集りいただきまして誠にありがとうございます。本日は現場視察中心で、山林の状況を見ていただきます。水道水源保全基金の事業地、モニタリング調査の事業地、森林組合の新庁舎が、どうなっているかを見ていただきたいと思っております。

途中、トイレ休憩等もとりますけれども、少し寒いことと、移動距離が長いものですから、お気をつけ願いたいと思います。

昼食は、申しわけございませんけれども、お弁当でお願いしたいと思っております。御内の管理事務所で、お昼をとりたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

おおむね4時には終わるようにしたいと思っておりますので、よろしくお願ひを申し上げます。

それでは、早速でございますけれども、岡本会長からはじまりの挨拶をお願いしたいと思います。

### ○岡本会長

どうもこんにちは。本日は実際に現場を視察するという事で、今後の参考にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。大分寒いので、もっと暖かいところでやれたらよかったですけど、そうはいかないものですから、防寒対策をして一日頑張っていたでいて思っておりますので、よろしくお願ひします。

### ○加藤課長

そうしましたら、さっそくですが、配布の資料の配車のおりに分かれて移動したいと思います。ここから20分ほどかかる予定ですので、よろしくお願ひします。

### (水道水源林確保事業：矢作第一ダム周辺)

#### ○鈴木主査

ここは、水源地の購入のエリアで、見えている斜面を上流にずっと上っていく。尾根からこちら側が、今回の購入予定地です。見ていただくとわかりますけれども、斜面がきつくて、斜面傾斜が40度、45度の場所もあります。また、思ったより人工林が多いんですけども、こういった場所を少しずつ購入することを予定しています。配付しました委員会資料の水道水源林確保事業概要を見てください。

このエリアは旧旭町の閑羅瀬町・小滝野町・牛地町の一部になっていまして、全体では700ヘクタールほどありまして、人工林率が76%です。およそ300人の所有者がいて、かなり規模が小さいものもありますので、3ヘクタール以上の規模にまとめて、順次、人工林を購入していくという事業が、この水源林確保事業の概要です。

全部で700ヘクタールあるんですけども、天然林もありますし、あと、なかなか交渉がまとまらないケースも考えられますので、おおよその目標としては300ヘクタールぐらい。時間はかかりますけれども、順次、3ヘクタール以上のまとまりをつくって、所有者さんと交渉して、購入していきます。その後、管理が必要なところは、強度の間伐をして、健全な人工林に誘導していきたい。それが、この確保事業の概要です。

#### ○岡本会長

造林検査で来たような気がするな。

#### ○北岡副主幹

岡本さん、造林検査の補助金の関係でこの辺にみえてますよね。50年代かと思われます。

#### ○蔵治委員

その当時はもうダムはできていたのですか。

#### ○鈴木主査

この矢作ダムは1971年に完成していまして、今で43年目のダムです。

#### ○北岡副主幹

かなりの部分は、ダム前植林されたものです。

#### ○蔵治委員

ダム前から。

#### ○北岡副主幹

人工林の多くの部分はダム建設前から植わってます。

#### ○北岡副主幹

かなり古い木が、実は多いのです。

○鈴木主査

ちょうど、この矢作ダムの堤防のお高さは100メートル、ずどんと下まで100メートルの高さです。堤防の上端の両端の幅が5メートル、下部の幅が20メートルです。

○清水副会長

公社造林か何かではないよね？個人なのか。

○北岡副主幹

いや、個人がほとんどです。ダムより前に植えてあるところが多いです。

問題は、これから対岸を走るのが、道路の法面が高くて出せない。木の質も結構いい木があるし、いい木もあるのですが、出しようがない。道上のほうは傾斜が急で、とても道もできませんし。

○清水副会長

では、ほとんど手が加わってないのではないか。

○北岡副主幹

それが意外なことに間伐まではやってあるところがあります。もちろん、やってないところもあるんですけど。だけど、木が出せない。

ですが、結構いい木ありますよ。洞なんかは土質もいいし、樹高成長もいいです。うちの市有林もそうですけど、木の質はいいです。ただ、斜面は平均傾斜40度ぐらいありますのでとにかく急です。

○加藤課長

ガラが多くて、作業すると、石が下へ転がっていってしまう。

○北岡副主幹

怖いですね、本当に怖い。だから、伐採もどうやったらいいのかというの考えながらやらないといけない。

○洲崎オブザーバー

強度間伐も大変そうですね。

○北岡副主幹

そうそう。だから、倒した木を、少なくとも尾根に横にきれいに掛けていかないと危ないかなという心配もありますし。それが、根が腐ったときに、どうなるかというのもありますし。なかなか一筋縄ではいかないなとは思っています。

○鈴木主査

今、この水道水源林の間伐事業のほうでは、本当に急なところは間伐木の横積みを予定しています。少し経費がかかっても、土砂流出の防止するため切った木を横積みしていつて、簡易の土留めを作っていこうと予定しております。

○蔵治委員

ダムができたとき、道をどう作るかというときに、強く意見を本当は言わなきゃいけないかった。

○北岡副主幹

かもしれませんね。

○蔵治委員

余り何も考えずに作ってしまった。

○北岡副主幹

法面が10メートル以上あるところがざらですので。

○蔵治委員

そのときに、本当は国交省が全部土地を買い取るべきだったんですよ。

○北岡副主幹

かもしれませんね、危ないところはそうですね。

○蔵治委員

今だったら、そういう議論になっていくかもしれない。

○鈴木主査

ちなみに、御存じの方もいるかもしれませんが、放水口が真ん中のほうに3つありまして、通常そこで放水してるんですけども、上の放水口、上段に4つありまして、この43年間で1回だけ使ったそうです。それが、平成12年の東海豪雨のときです。

○加藤課長

実は、中段もほとんど使われないんです。

○鈴木主査

下流の方に聞くと、轟音と揺れですごかったと聞いています。

○深見担当長

では、そろそろ、今度は対岸に渡って、より近いところから山を見ていただきますとい

うことで、移動しますので、車のほうへお乗りください。

### (水道水源林確保事業・城山市有林①)

○鈴木主査

ここは、城山市有林地で、市が管理する山です。先ほど説明しました購入エリアは、この市有林の上流側から始まって、牛地から旧稲武町との境まで行くエリアですので、ここは購入地ではないのですけれども、アクセスしやすく、見やすい場所で、購入地と地形が似ておりますので、ここに御案内しました。

見てのとおり、近くから見ても急傾斜で、人工林で、岩がぼろぼろと落ちてくるような所で、登るのも大変という感じがよくわかる地形です。

こういう場所を、所有者の方と協議して、購入させていただいて、順次、間伐等必要な作業をやって、健全な人工林にして、矢作ダム周辺、このエリアを守っていくという市の事業で、水道水源林の事業の中でやらせていただこうと現在、計画しております。

○岡本会長

傾斜がきつすぎて、流れる土がなくなって、岩がむき出しになってるね。

○鈴木主査

間伐する以前に、登るだけでも、大変な状況だということがよくわかると思います。

○稲垣委員

この岩は何でできるんですか。

○北岡副主幹

全部花崗岩です。典型的な花崗岩ですね。雲母も少なく、石英が多いでしょうね。

○蔵治委員

これは比較的年代が新しいですね。

○北岡副主幹

そうですね。風化の度合いも少ないですから。

○岡本会長

きょうはここを登る時間はないね。

○北岡副主幹

登る時間はないです、残念なことに。

○深見担当長

今から、この上に道があるものですから、車でいきますけれども、どうしてもこっちか

ら行きたいという要望があれば。

○北岡副主幹

岡本さんが歩くだけで、石が落ちてきてしまうくらいですから。

○小幡委員

間伐作業も命がけですよ。このあたりだと豊田市内でも一番、これ大変なところじゃないですか。

○深見担当長

そうですね。豊田市内では傾斜がきつい部類ではありますが、他の市や地区ではここより急傾斜で、林業をやっているところは多くでもありますから大変ですよ。

○加藤課長

そろそろよろしいですかね。

では次にこの市有林を上から見るために、再度車で移動いたします。

**(水道水源林モニタリング事業・城山市有林②)**

○鈴木主査

先ほどの沢をずっと登ってきた、ちょうど尾根のあたりがここですが、まだ場所は確定してないですが、大体このあたりで来年から、先ほどから紹介しています水道水源林事業の中で、モニタリング調査地の設定を予定しています。

お手元に配付した委員会資料2「水源かん養機能モニタリング現場説明資料」というものですが、この場所で、間伐した現場と間伐してない現場で森に流れる水の量がどのように変わってくるかという調査を予定しています。

少なくとも事業期間は10年以上ということで、間伐前と間伐後の水の流れを調査していきたいということで、3番の調査区の設置ですけど、来年から、この旭調査区で、この流域ともう一箇所の流域で、間伐する流域と、対照区ということで間伐をしない流域、この2カ所を設定して、その中の林内降雨量、また、林外降雨量、そして、樹幹流量、地表面を流れる流量、土砂流出量、下層植生の変化も調査を来年から実施したいと考えています。

図で、カラーの図であります。大体2つ流域を設定しまして、左下が樹冠遮断測定ということで、森の中でこういった転倒降雨量計、または、シートを張った雨量計を設置して、森の中、雨が降ったときに林内にどれぐらいの量の雨が落ちてくるのかという調査をしたり、あと、その右上、樹幹流量と書いてありますけれども、幹を流れる流量を補足して、その流量をモニタリングしたいということと、右側の地表面流量測定で、大体4メートルから10メートルぐらいの長方形をつくりまして、その枠内で地表面流がどれぐらい流れるか、また、土砂がどれぐらい流れるかというのを、10年間ぐらいかけて測定して、間伐の効果、また、強度間伐の効果をしっかり把握していきたいというのが、この調査地の狙いです。

きょう来ていただいてわかるとおりアクセスしやすいですので、展示林としていろんな

方に見ていただいて、どういうことをやっているのか知っていただきたいと思っています。  
大体、来年の夏ごろから設置してモニタリングできればいいなど、思っております。

○岡本会長

ここは全然、間伐したことがないですか。

○鈴木主査

この場所はそうです。

ここの他にもう一カ所、小原地区の市有林で、また同じような調査をして、この流域で場所を変えて、またどういう違いが出てくるか、間伐することによって、保水力等に効果があるのかというのを検証していきたいなと思っています。

○蔵治委員

土砂流出量というのは、どうやってはかるのですか。

○鈴木主査

地表面流量調査のところで、下流の受け皿で捕捉しますので、そこで流れている滞留土砂を捕捉できないかと思っています。

○蔵治委員

土砂流出量というのは、表面を流れる水とともに出る土砂というイメージなんですね。

○鈴木主査

はい、そうです。

○蔵治委員

だから、下に転がっていた、ああいう石みたいな巨大なものじゃないわけですね。

○鈴木主査

そうです、そういうのはなかなか難しい。間伐することによって、下層植生が回復して、そういう細かい土砂の流出に変化が出てきたら、それも1つの間伐効果になるのではないかと思ひまして、そういう内容も調査していきたいなと思っています。

○岡本会長

間伐場所と間伐してない場所の両方を並行して調査をやるよということ。

○鈴木主査

そうですね。イメージとしては、2つの流域をつくって、1つは間伐しない流域、1つは間伐の流域としまして、その日変化を見ていくと、10年間ぐらい。そんな感じで考えています。

○洲崎オブザーバー

林分調査はやるんですよね。

○鈴木主査

はい、やります。

○稲垣委員

この木の林齢はだいたい45くらいですかね。

○北岡副主幹

これは、もっと古いと思われます。

○稲垣委員

かなり成長はいいですよ。

○北岡副主幹

60年から70年だと思いますよね。林齢は大分古い。なかなか本当にいいところが見つからないですよ。今、鈴木が言いましたように、やはり僕らとしては、40%以上の間伐、市が進めている間伐をやったら、どういうふうに対照区と変化があつて、だからこそ、間伐を進めていきたいという、根拠が欲しいですけど、なかなか資料がなくて。いつもお話しする間伐モニタリングで、特定の調査はやってるんですけども、なかなかそれだけでは一般の人にPRという点で足りないと思うものですから。この調査で間伐すると、こんなに効果がありますというのが出るのを期待しています。

○鈴木主査

この調査の狙いの1つには、50%か60%ぐらいの強度間伐を過密林分に対してやって、その効果を見たいということがあります。この水源かん養機能調査には、ある程度の流域があつて、過密林分であることが調査地の条件ですが、少なくとも市有林に関しては、この10年間、かなり間伐をしてきましたので、なかなか適地がなくて、非常に探すのに苦労している状況です。それだけ市有林の間伐が進んだということですけども。調査地としては、なかなかふさわしい場所がない状況ですね。

○蔵治委員

本当は、これから購入するところの私有林の中で適地を見つけるということをやれば、もっといいのかもしれないですけど、それには時間がかかるからということですよ？

○鈴木主査

そうです。



○蔵治委員

だからすぐに始めるわけにはいかないと。

○鈴木主査

はい。

○北岡副主幹

そうですね。本数がたくさん生えている割には、林床が明るくて、下層植生もまあまあの種類が生えていますから、僕らが本当に思っている真っ暗林ではないです。本当にそういうところがないですね。ここでも、平均的な豊田市の間伐手遅れ林から言ったら、状態も上だし、下層への受光も割と高いほうだと思います。でも、ここはまとまっていて、対照地としては比較的条件もいいし、傾斜も、この地域としてはいいとは思っています。

○蔵治委員

この地図を見ると、勾配が尾根の上のほうが緩いですね。

○鈴木主査

そうです、おっしゃるとおりです。この場所については市民へのPR的にも使いたいということもあって、道から近くて、それで、森に入ったら、凄いと言わせられるようなものが欲しいと思っています。税金の使い道としては、そういう市民へのPRというものも、すごく大事な面なものですから、そんな施設ができればと思っています。

○岡本会長

やっぱり、市民への見本となるとね、アクセスも重要ですからね。

○清水副会長

ここは遊歩道を一周して、また戻ってこれるようになっているのか。

○北岡副主幹

はい。この道路は、さっき曲がったところを回って戻ってこれます。

○林オブザーバー

適宜開放して、この場所を年に1回か2回市民を連れてきて、見させるというところに力を入れて欲しい。試験することも大事だけど、現場を一番案内することも重点を置いて欲しい。

○鈴木主査

そうですね。もちろん水道局とは密に連携して事業をやっていきます。第1回の森づくり委員会でも説明しましたが、購入事業やPR事業は、基本的には水道局がやっていくので、連携は不可欠になりますし、森林課には森林学校の講座もあります。できる限り有

効に使える機会をつくっていきたいと思っております。

### (間伐モニタリング調査・御内市有林)

#### ○鈴木主査

午前中の話が、来年度から新しく始める水源涵養機能のモニタリングだったんですが、この場所は、平成20年度からやってます間伐効果、間伐した後の木の太さ、また、下層植生の回復度合いを見る間伐モニタリング調査の現場に来ていただきました。

ここは、10メートル×10メートルで囲っておりまして、継続的に調査をしています。豊田市内で75カ所にこういう調査地を設定して、間伐した後、どのように下層植生が回復するか等の調査をしています。

ここは、委員会資料の3を見ていただきたいんですが、下の表の調査地名かつ御内1です。御内1の斜面方位北の放置区です。

最初に調査したときが平成20年度、2回目調査したときが平成20年と書いてありますが、これすみません、ここは平成23年度です。3年後に調査してますので、2回目調査、どの調査区も平成23年度ということで修正していただきたいと思えます。

この御内1は放置区で、ずっと置いておく場所です。立ち木本数が大体1ヘクタール2,500本、100㎡でしたら25本ある現場です。下層の草本の種類はずっと放置しておりますので、9種類から7種類、3年後は少し種数が減ったという結果になっていまして、その隣の調査区が御内7です。60%間伐をしたところを後で見えていただきまして、そこは種数がふえています。立ち木本数が2,300本から800本に、間伐をした場所です。その後、この斜面の向こう側に、通常、豊田市で最近は行われています4割間伐、40%間伐をした場所がありますので、そちらも最後に見ていただいて、この3カ所、施業の内容が違う3カ所を見ていただいて、その違いを説明させていただきたいと思えます。

詳しい植生の説明は、北岡副主幹にバトンタッチしたいと思えます。

#### ○北岡副主幹

まず、これを見ていただきたいと思うんですが、ヒノキの細根がここまで出てます。これヒノキの細根です。いつもお話するように、ヒノキは根っこがせいぜい30センチから40センチしかないんですけど、その一番大事な部分がほとんどあらわれ出てる。それでも、まだ表面に多少腐葉層がありますので、これですね、これをちょっとめくると、すぐにヒノキの細根が、もう露出するような状況になっています。それで、やはり下層植生がない。上から雨滴が落ちてくることなんだろうとは思っています。

9種から7種ということは、豊田市内では最も数が少ない部類です。真っ暗に見えて、大体10種類ぐらいはどこもありますので、ここは標高が高いことと、ヒノキ林という2つの条件が相まって、こんな状態になっていると思えます。

今後、どうなるかというのは、これ以上悪くなりませんので、一体どうなるんだろうということ、思っています。

ついでに、隣を見ていただきたいと思うんですが、ここの尾根を越えると、がらっと変わるんです。これ同じときに植えた林分です。もちろん、標高も同じ、土質も同じ、斜面方向も同じ。だけど、これだけあるんです。その条件の差、わかりますでしょうか。何で

ここが、これだけあるか。

○稲垣委員

スギとヒノキの違いでは。

○北岡副主幹

そのとおりです。

○北岡副主幹

稲垣さんが言われたとおりです。スギの植栽地は、同じヒノキの植栽地と比べると、はるかに植生が残ります。それは、1つは、ここもそうなんですけど、こちらが乾燥してるから、もともとヒノキを植えて、くぼ地になってるから、スギを植えたんだと思うんですね。要は、適正に樹種が選択してあったことをあらわしている1つの印でもあり、スギの適地は、かなり立木本数が高くて、下層に光が当たらなくても、実は下層植生って相当残るということを、すごくよく教えてください。

最初に設定してときに、それが何かのときに説明できるように、ここを設定しました。いろいろ考えて、どこにしようか物すごく迷ったんですけど、いろんな意味で模範になるような、いろんなストーリーの話ができるところを間伐モニタリングにも選んだつもりをしてるんですけど、ここはそういう意味で選びました。

○稲垣委員

地形の違いでここまで。

○北岡副主幹

すごい差ですよ。それが本当に、このわずかな微地形の差だけなのか、例えば、スギの細根とヒノキの細根の位置がちょっと違いますので、それによる水分の収奪が違うのか、そこら辺がわからない。まだ解明されていない部分です。でも、おもしろいですよね、こういうのって。

○稲垣委員

すごいですよ。

○北岡副主幹

すごくおもしろいと思って、ここを選んだんです。

○稲垣委員

樹高のノビが多い。ヒノキのほうが。

○北岡副主幹

ヒノキのほうが、成長がいいんです。1,000メートルで尾根に近いものですから、適地

としては、本当はヒノキです。だから、スギなんか劣勢木、完全に立ち枯れしてますでしょう、いっぱい。余りこういうことはないですが、やはり1,000メートルという標高が、スギ自体は本当はいかんのだろうなと思っています。ヒノキのほうがいいですもん。同じ手入れをしていると思うんですけど、立木本数、こっちも2,000本を超えてると思うんですけど。

○洲崎オブザーバー

それで、スギに比べて、下層植生のほうが元気なんですよね。

○北岡副主幹

そうです、そういうことです。というか、スギがやっぱり標高的に適木じゃなかったものだから、最初から成長が悪くて、太陽の光がある程度当たっていたということも、きっとあるんじゃないかと思うんですけど。ちょっとそこら辺がわからないですね。僕らは、今現在しか見てないものですから、過去何十年か見てると、すごくおもしろかったと思うんですけど。

○岡本会長

樹高に差はないと思うけど。

○北岡副主幹

はい、樹高差はないです。スギとヒノキに差はないし、平均胸高直径も恐らく、そんなに差がないと思います。

だから、1,000メートルというのは、スギにとっては厳しい標高なのじゃないでしょうか。

○稲垣委員

樹高は何メートルが最も良いですか。

○北岡副主幹

わからないですね。それもちゃんとはかってみないと。間伐モニタリングでは、それもわかるように、標高ごとにスギとヒノキとを選んで今、やっていますので、間伐モニタリングが5巡ぐらいして、15年ぐらい経過した時点で分析をすると、きっと面白いデータになるというふうに、最初から設定はしています。

○稲垣委員

標高というのか、気温が成長量に違いをもたらすのかも。

○北岡副主幹

そうですね。成長時の気温かもわからないですね。そこが、なかなかわからないところが。

○稲垣委員

秋田杉みたいに緯度が高いほうがよい木ができますよね。

○北岡副主幹

スギは、基本的には日本海側分布の植物なものですから、多雪地のほうが、ブナと同じで成長もいいし、形質もいいです。それと、苗がどこから来たかというのが、実はすごい大事です。50年ぐらい前に来た苗って、くず苗が結構あるんです。ちょうど全国拡大造林時代だったものですから、くず苗が流通してるんです。物すごいくず苗が流通していて、そういう苗は、ここはそれほどじゃないんですけど、ああいう中間でヤゴがわっと出るのやら、樹皮にぼつぼつがいっぱい出るのやら、すごいいろんなのが入っています。うちの市有林の中でも、そういう場所があって、用材としてはどうやってもだめ。ただ、いつまでも、ずっとこれからも用材としてだけ使うということではないかもしれないものですから、ちょっとどうしたらいいのか、わからない部分です。

そんなことで、ちょっと違いを見ていただけたらと思います。

次に隣の60%間伐の調査地へ移動します。

○北岡副主幹

ここが、6割間伐をやると、こんなになっちゃうという、まず見本です。出材しないと、こうなります。これが、一般的な森林所有者に納得してもらえるかということ、なかなか難しい。皆さんがどういうふうに思われるかというのが、すごく実際興味のわくところですけど、どうでしょうか。

○加藤課長

この木は倒れたの？

○北岡副主幹

これは、風で倒れたんですね。だから、強度間伐を6割やると、こういう可能性もあるということです。特に尾根に近いですので、こういう可能性もあります。何年たったら、木が土になるかということ、こうやって木の上に乗ったのなんかは、なかなか変化がないだろうと思います。

ただ、下層植生の回復を考えるだけなら、これだけすき間があいていれば、十分だと僕は思っています。これはカナクギノキですけど、間伐してから大きくなったようです。だから、6年でこれだけカナクギノキが出てきた。隣のどこかにカナクギノキの大きな木があるんだと思うんですけど、そこから種が飛んできて、種って鳥が運ぶんですけど、鳥が運んできた子がこれだけ出てきたということですね。

それから、ソヨゴみたいな常緑樹もぎりぎり、1,000メートルにしては、それはごく珍しいんですけど、何とか出てきてるし、シダもあるし、回復としては、何もなかった先ほどの状況が6年でこうなるならば、回復の度合いは非常に高いと僕は思います。評価としては、ここの回復度は僕の中では高いです。そのかわり、林業では絶対はない。いわゆる

昔からの林業を捨てない限り、こういうことはやれないだろうなと思います。

もう一つは、今、ちょうど、この切った木の根っこが腐って、腐り切った時期ですが、そのときに時間雨量100ミリが降ったらどうなるかもわからないところはあるかなと。ただ、ヒノキの場合、どうやっても100ミリ降りゃ崩れますので、このぐらいのことはいいんじゃないかと今のところは思っているんですけど、それが、これからどうなるかはわからないです。ここはシカの害で、このシダは明らかにシカに食べられています。これシカ害ですので。オオベニシダだと思ふのが出てきた後、これシカが食べたんです。カモシカかもわからないですね、今、カモシカの糞がありましたので、カモシカかも。これぐらいだと、カモシカの可能性もあるんですけど、動物害を受けてるということもありますので、どういうふうに、これが次の3年後、その後6年後に変化するかというのは、非常に面白い命題です。

いつも言われるように、シカの害は、こういうふうに枝を立てたままにしておくとなんかという報告書がいっぱい出ていますので、カモシカかも。シカは、お腹の毛がすごく薄いものですから、腹がするのは大嫌いですので、これだけぼさぼさにして、特に間伐した当時は、こういう枝たちが大分立ってましたので、それはシカ害を防ぐ大きな手になるんだろうなということも思います。

○稲垣委員

ここの木が重なっている所はどうなんだろう。

○北岡副主幹

あんなっちゃうと苦しいですね。あれだけ全部地表を倒れた木が覆っちゃうと、なかなか苦しいところがあります。

でも、100%びっしり植生が回復するということは、やっぱりあり得ないと思いますので、このぐらいのことなら、そんなに影響はないんじゃないかと、今のところは思っています。もうちょっと結果を見たいと思っています。ですから、60%間伐は、確かに効果があると僕は思っています。

次が、40%間伐です。今、市が一生懸命やってるのが40%間伐なものですから、見ていただきたい。

○蔵治委員

60%って、本数ですか。

○北岡副主幹

本数比です。

○蔵治委員

材積にすると。

○北岡副主幹

材積のがもっと、ずっと少ないですね。40%くらいだと思います。

○北岡副主幹

劣勢木から切るものですから、林業を捨てたと言いながら、そういう意味でもどうしても林業が含まれちゃうものですから、暴れ木は切るようにしてありますので、劣勢木だけ切っているわけではないんですけど、やはり劣勢木プラス暴れ木みたいなイメージです。

○蔵治委員

これは間伐率4割のところですね。

○北岡副主幹

ここは、もともと成長が悪い。斜面方向が反対ですので、成長が悪い向き斜面です。それで、木の質も最初のノーマルのところに、対照区に比べると、もともとヒノキの質もよくないし、樹高も短いし、年齢も若いというところしか設定できなくて、その列に3つだったかな、4つだったかな、並べていろんな種類を設定しました。

ここは、斜面の向きによる違いも見てみたいと思って、あえて両側に設定をしてみました。本当はもっと調査区がたくさんあると、いろんな統計的なものがとれるんですけど、そこまでは考えられずに、やはり見目で勝負したいとしました。案内したときに、うわっと言わせたいというのが、僕の頭の中に最初あったものですから、そういう設定がしてあります。

ここは、ちょっと日当たりが良い場所です。

○稲垣委員

林齢としては同じ？

○北岡副主幹

林齢は、ここは同じだったかな。ちょっと若かったかな。

○稲垣委員

ちょっと若いかな。

○北岡副主幹

そんなむちゃくちゃな差はないです。10年若かったかな、たしか。そのぐらいだったと思います。

なにしろ乾燥向き斜面なものですから、生えてる植物も、アセビみたいなものがどうしても多くなるということです。日当たりがいいものですから、暖帯性の植物が、標高1,000mの割には幾つか入ってるのと、どこかに最初、ブナの実生苗があったものですから、それを僕が喜んで設定しました。そうしたら、次のときに枯れてしまいました。非常にがっかりした調査区です、実は。

本来、1,000メートルですから、当然ブナ林があったはずですので、ブナ林を何とか、

ブナとヒノキの混交林にしたいという思いがあるんですけど、なかなか残念ながら、そうはいかないというところです。

ここも、下のほうの、黄色くなってるのは全部コアジサイです。コアジサイは、スギの適地とも言えるような植物で、割と湿度がある。こんな斜面の上部にしては、湿度が割とあるということです。ただ、尾根に来ると、この間だけは余りなくて、乾燥、この前はアセビがふえてますので、それだけで環境が相当変わっているということであらわしてくれてると思います。

ここも、植被率はそれほど変わってないんです。植被率は、間伐しても、そんなに急にふえてくれてないです。見ていただいても、若い3年生の子供たちって、それほど多くはない、期待しているほどは多くなくて、ここはちょっとがっかり区域です。なかなか頭の中で思い描いていたふうにはならないなというのが正直なところですね。

上を見ていただくと、それほど明るくなってない。

○稲垣委員

なってない。確かにそう言われると。

○北岡副主幹

はい。本数比4割では、実は余りだめですね。受光という点を考えると、光の受けを考えると、4割では余り改善されないなというのが、今、思っているところです。

○蔵治委員

いい木を選んで切ったとしたら。

○北岡副主幹

そうですね、優勢木を4割切れば、相当違う、おっしゃる言われるとおりでと思います。

○稲垣委員

この調査地では全て劣勢木を切ったのですか。

○北岡副主幹

平均的にバランスを考えながら選木しました。でも、いい木と悪い木があると、悪い木を切ります。あと、暴れ木の太い木を2本ぐらい切つてあると思います。選木は一応、僕がしましたので、そんなふうには思いながらはしたつもりをしています。

だから、4割ですから、旧来型の林業も考えながら、だけど、太陽の光ができるだけ当たるようにというのを考えながら、一応、選木したつもりをしています。

○蔵治委員

間伐した直後より大分、鬱閉したんですね。

○北岡副主幹



そのとおりです、おっしゃるとおりです。資料を見ていただくと、わかると思うんですが、大分、下から見た写真を見ると、鬱閉をし始めています。

○蔵治委員

枝が下がるんですね。

○北岡副主幹

はい、そうですね。枝は下がるし、1年に片側、20センチは、ここは伸びなくて10センチぐらいずつは両側が伸びると、両側で20センチふえますので、そうすると、5年たてば1メートルということになりますから、大分、鬱閉が進んできました。ただ、上を見ると、まだまだ葉っぱの量が足りなくて、これじゃ成長するわけないやと思う木ばかりですね。

だから、日当たり斜面の乾燥斜面に植えちゃいかんということ、はっきり言うと、教えてくれていると思います。当時はそんなことわからなくて一生懸命植えたことを、結果として僕らは、そういうことを言える立場にあるんですけど、それを次のときにどうやって生かすかというのが、逆に僕らの役目かなということの思いながら、いつも調査をしています。

○北岡副主幹

ということで、大体の説明を終わらせていただきたいと思いますが、何か御質問がありましたらお願いします。無いようですので下山しましょう。

#### (豊田森林組合本所で質疑)

○加藤課長

皆さん、お疲れ様でございました。寒いなか視察していただいて身体も冷えたと思いますが、もう少し意見交換をしたいと思いますが、初めに、蔵治先生のほうから資料の提供をいただいておりますので、その説明をお願いしたいと思います。

○蔵治委員

皆さんのお手元に、10月26日の日曜日に、豊田市の森づくり10周年のイベントで使用したスライドの縮小コピーを配布させていただきました。洲崎さんからは、森の健康診断の結果報告。それから、森林課の深見さんが、豊田市の森づくり10年というお話をされたんですが、そのときのスライドの抜粋です。写真等を除いたもので、皆さん参考になればと思って、お配りしました。

スライドでは私個人の考えを書いているだけなので、皆さんも見ていただいて、これは違うのではないかとということがあれば、ぜひご指導いただければと思います。

○加藤会長

どうでしょうか。何かご意見があれば。はい。

○鈴木洸委員

意見です。私は研究会に参加して、また、先生から資料をいただいたのを見させていただいておって、それで、未来への提言があって、森づくりの会議が未設置地区、針広混交林の施策に、いろんなことを先生に書いていただいたんですけど、また、ここの中で真ん中辺に、森林が管理できないと回答した者のうち、管理を委託したいというか、そういうぐあいに思っている方が58%も見えると、そういうことで先生書いていただいたと思うんですけど、実際、森づくりとか、そういうのをやっておって、ある程度、軌道に乗ったところでも、これに近い将来的には委託していったらどうかという、そういうぐあいに考えてますので、モデル的な管理委託の先行地域みたいなのをつくっていったらどうかと考えております。

これを見させていただいて、将来の問題点ということで、そういうことをやってみたらどうかというところで感じておりますので、お願いします。

#### ○加藤課長

今、管理の委託っていう話がございますけれども、この地域、森林事業体がないものですから、それを担うのは森林組合になろうかと思いますが、組合の方も今、お見えになりますので、ご意見を。

#### ○林オブザーバー

皆さん、お疲れさまでした。余談ですけど、きょう、山へ行ったときに、森づくりにこれほど力を入れているのは豊田市くらいだと話をしている、行政が本腰を入れたきっかけは東海豪雨だったと聞いています。森の健康診断についても、市民と学者の先生方も入れて、しっかりとした統計づくりをされたということが、私は森づくりにつながっていくのかなと思っています。おかげさんで、森づくりの団地が約6,000ヘクタール分、杭を入れるところまでできたということは、始まって10年ですけど、あと10年したら、かなりのところまでできてくるのかと思います。現在の施業は、間伐を中心にやっておりますけど、せっかく間伐して、作業路を入れた中で、将来的にはどういう話になるかという、やっぱり木材利用も視野に入れていくのが、山間地の労働対策にもなるし、進めていきたいなという気持ちがあります。

今、林野庁が進めている森林経営計画が5カ年の計画をしているのですが、やはり、これからは10年単位の長期受委託契約等々も含めて考えてはどうだということも思っております。もし、一部のところでモデル的にやってみたいと言われることがあれば、これから森づくりを進める中で、将来のモデル的な長期受委託契約の中で、森林組合あたりが責任を持って、中核的担い手事業体としてどうするかということ、皆さんと話し合いながら進めていければとも考えております。

最初に4割間伐をすると聞いたときは、私は、少しやり過ぎではないかと思ったんですけど、これから現在の状況を見ると、かなり植生も回復しとるし、山が元気になってたということが分かりました。午前中に見た水道水源地の視察をしましたが、私の知り合いにも水道審議委員を務めている人がいて、何で水道水源事業なのかという話を言われて、そういうときに、やっぱり現場を見ていただくことが大事かと思います。植生調査とも含め、間伐した後でどういうふうに回復したかということ説明ができると、今回の水道水源のP

R資料にはなるかなと、そんなことを考えさせていただきました。

いろいろと申しましたけど、将来的には長期受委託契約のような形で、森林組合が中心になってやっていければいいなと個人的には思っております。

以上です。

○加藤課長

ほかに何か、御意見等ございましたら、お願いいたします。

○清水副会長

今、森林組合が受委託契約しているものがあるかね。

○林オブザーバー

ありません。現在、経営計画を立てて中長期的な視点から物事を考えていますが、まだ長期受委託契約はまだできておりません。

○蔵治委員

本日、見せていただいた資料の中には市有林が2,000ヘクタールあると書いてありますが、市有林の受委託契約ということも、他地域では結構聞きますが、豊田市有林については、それもやってないわけですね。

○林オブザーバー

豊田市有林は、豊田市有林の長期施業計画がありますので、それに基づいて、森林組合が森林課から出されている施業を委託してやらせていただいております。

○蔵治委員

だから、丸ごと受委託されてるわけではないと。

○林オブザーバー

はい、それはありません。

#### (豊田森林組合新庁舎見学後、豊田森林組合本所にて質疑)

○加藤課長

改めまして再開いたします。

今、改めてお手元のほうに資料をお配りしましたので、蔵治先生から。

○蔵治委員

今、追加で配った1枚紙の中で未来への提言の④番ですけれど、「公的資金を受け取った者は、説明責任を果たす義務がある」というのは、強い表現になってますが、これは、森林所有者の方一人一人に説明責任を果たすということではなくて、行政が出す補助金と

というのは、何らかの目的を持った補助金なわけなので、その補助金を使うということも含めて、やはり個人の財産に税金を投入するという意味というのを改めて考えましょうということ。

それから、最後に、「みんなが自分の森を持つ『マイ森運動』はどうか」と書いてあって、市民全員が森林を所有しなさいと言ってるわけではなくて、既に所有者がいらっしゃる森がたくさんありますが、中には困っていらっしゃる所有者もいらっしゃるって、森は持っているけれども、自分1人ではどうにもならないということもあると思うので、所有者の人が力を合わせて、森の手入れなり、森林にかかわっていくということは、都市住民にあるかもしれないと。

私がイメージしているのは、例えば、「すべての森づくり会議に小学校を割り振る」とかというようなことを書きましたけど、都市住民も森にお金を払っていますので、森林所有者の人ともっと連携して、応援団になり、労働力にもなり、一緒に森を楽しむ仲間にもなりということができないかという意見で、そういうのを「マイ森運動」という言葉で書いたという意味合いです。

だから、所有者の方は、この中にもいらっしゃると思うんですけど、これだけ読むと、所有者の権利を侵害しているみたいに誤解されると困るので、そうではなくて、森林の所有者だけで何とかしなさいということに限界があるということも、もう一度考えればいいかなということですね。

「おわりに」のところには、「森林管理を請負う公的組織『とよた森づくり機構』、担い手『とよた森づくり隊』の立ち上げ」と書きましたけども、今、豊田市では、例えば、受委託契約にしても、その受け皿というのは森林組合しかないという状況になっているわけですが、森林組合というのは、どうしても木材生産ということを中心に考える組織になっていってしまう側面もあります。木材生産ということを中心に考えない形で委託したいとか、売り払いたいとか、寄附したいとか、世の中のニーズがいろいろあると思いますので、そういうものに対する受け皿というのは、森林組合でない組織のほうがいいのかもしいかなという意味で書いています。

さっき立ち話にありましたけど、森林組合の中でこういったことも請け負うような部門ができるのであれば、森林組合で担うということもあり得るかもしれないとは思っています。

あと、（鈴木前市長）と書いたんですけど、これは鈴木前市長の発言を引用してあるところがあって、とよた森づくり委員会という組織が最初に組織されたときの第1回の委員会に鈴木前市長が出席されて、発言された言葉が書いてあります。そこに豊田市全体を巻き込む仕組みが必要だということを書いてありますが、具体的にそれを具現化するような取り組みはこれまで余りされてこなかったんだろうと思われれます。

それをやるには、教育との連携ということで、もっと義務教育の現場に広い意味での木育、あるいは、森林教育を入れていくようなことで、豊田市の子供たち全員に森とか木というものを知ってもらうこと。さらに、発展していけば、町中にある小学校を含めて全て、それぞれ豊田市内にたくさんある森づくり会議という組織に、小学校ごとに、森づくり会議を割り振っていく、その流れをつくるということができないかなということを提案しておきます。

説明は以上となります。御意見等ありましたら、よろしく申し上げます。

○加藤課長

ありがとうございました。市が行う森づくりの説明を地域に出向いて行う場合は、皆さん補助金をもらって、森林整備する。これは、山主の方も優遇できるわけではないということの説明しております。ともすると、何で山ばかりに税金を投入するんだと言う方もお見えでございますけれども、趣旨としては、公益的機能の発揮できる山にするということです。

○蔵治委員

あと、前のスライドであった、おいでん・さんそんセンターによる集落住民のアンケート調査結果がありまして、これは、鈴木辰吉さんが学会で発表されている内容です。ここには集落住民のアンケートと書いてあるんですけど、一体どこのですかね。

○洲崎オブザーバー

これは敷島自治区です。

○蔵治委員

敷島自治区についてもっと詳しく教えて下さい。

○洲崎オブザーバー

敷島自治区の全戸を対象にしていて、住民がどんどんいなくなって荒廃が進んでいる。そこに住んでいる方の意識調査を行うというような考え方でやっています。

○蔵治委員

私の聞くところでは、おいでん・さんそんセンターの中に、森林部会というような組織があるそうで、その組織でいろいろ議論された上で、こういうアンケートもやられているのかなと思いましたが、その森林部会ってところの議論みたいなのが、この森づくり委員会にも、情報交換する体制があったほうがいいのかないかなということは思いましたが。

おいでん・さんそんセンターは、いずれ豊田市から離れるのかもしれませんが、同じ豊田市の中の組織で、森林を議論する組織は今、もしかしたら2つある状態になっているのかなという感じがいたしましたので。

○洲崎オブザーバー

その件に関して言うと、おいでん・さんそんセンターは、都市と農山村の交流を軸に地域を再生していく理念があります。いくつか部会を持っていて、その中の1つに森林部会というのがあります。山里で暮らしていくにあたり、林業ではないけれど、山にかかわる仕事ができないか、そういう人の支援をしています。現在、豊田市の中山間地にIターンの若者が入ってきていますが、彼らは農的な暮らしを志向していて、冬は比較的暇な時間があります。その時間に山仕事をしてもらい、いわば半農半林的な稼ぎをしてもらえない

か。このことを実現するための準備を行っている段階です。ということで、森林課が進める森づくり事業とは規模が全く異なります。

○蔵治委員

少し誤解を招いているかもしれませんが、公的管理というのは、林業をしないという意味で言っているわけではありません。小商いをするにしても、補助金を入れなければ赤字になると思いますが、その補助金は、一体どこから出てきているのだろうかという疑問があります。

○洲崎オブザーバー

水源基金を想定しています。

○蔵治委員

水源基金というのは、ちょっとわからないんですけど、誰か説明してもらえないでしょうか。

○加藤課長

矢作川水源基金のことです。いろいろ法的クリアしないといけない部分もあると思う、まだ課題なんですけど、そういう方向でやりたいと思っておりますが、ただ、市長も、あくまでも自伐林家の育成を考えたときに、受託や委託の状況によって、山主やそれを仲介したおいでん・さんそんセンターが責任を負わなければならない事態も発生し、単に個人と個人の委託であれば、そこで済むんですけど、何らかの団体が介入すると責任が生じるのではないかと。

○洲崎オブザーバー

おいでん・さんそんセンターが管理するというよりは、山主さんが彼ら、半農半林の若者に委託する形になると考えています。

○加藤課長

法律と遵守すべきところはあるかと思っておりますけど、結局は、組合委託事業の下請けのようなことを考えております。自伐林家の方が、隣の山も一緒に面倒を見ることぐらいはあるかもしれません。

どうです、その他はありますでしょうか。

○加藤課長

はい、では蔵治先生の持ち込み資料についての話はこれで一端しめたいと思います。

続きまして、きょうは1日現場を見ていただいて、御意見等ございましたら、この機会にお聞きしたいと思います。

きょうは矢作ダム周辺の視察をしていただきましたけど、説明したとおり、本当に急傾

斜で林業経営は困難な状態の森が多いです。恐らく個人の方では、管理が難しいんだろうということもわかりまして、市として購入して整備をしていくことがよいのではと思っております。

ただ、この点につきましても、議会説明や、市民の方々にも説明できるような資料を作成しまして、長期にわたりますけども、データ収集をして今後の森林施業にも活用していきたいと思います。つきまして、委員の皆様方にもご協力お願いしたいと思います。

○清水副会長

よろしいですか。水源の森というのは、何年計画なんですか。

○加藤課長

今のところ10年間を限度の予定です。

○清水副会長

今の予定だと、市の森づくり構想で、10年間で本当に努力しているのは分かっているが、間伐にもお金を回す工夫もしてもらいたい。

○加藤課長

当然、間伐も行います。毎年の水道料金上乗せ徴収分が約3000万円あります。あわせて、以前の積立て分も資金を持っているものですから、間伐事業に回す可能性もあるかと思っています。

○清水副会長

間伐に使えるお金は年間3000万円ってことで。

○加藤課長

正確に言いますと、他に水道局が浄化装置の補助金などに使う部分がありまして、丸ごと3000万円使えるわけではありません。ですが、間伐事業は大体、100ha分は回すようにしたいと思っております。

○清水副会長

事業地購入では今まで、水道水源基金としての貯まっていたものを使うわけですね。

○加藤課長

はい、そうです。

○鈴木主査

第1回森づくり委員会で御説明しましたけども、3本の事業がありまして、間伐と購入とモニタリングですが、あくまでも中心は間伐でやっていきますので、年間収入の7割ぐ

らいで間伐を実施して、その残りの部分でモニタリングをやっていきます。事業地購入は積み立てた基金をあてがう形で、あくまでも1 t 1 円の中心は間伐事業をやっていくということで御理解いただければと思います。

○清水副会長

希望としては、なるべく間伐を少しでも増やしてもらいたい。

○加藤課長

森林課も基金の財源を持っておりますので、組合側も頑張ってやっていっていただければ、十分対応はできると思っております。

○小幡委員

最近知り合った方で水道水源事業のお金で間伐やると言ってるけど、それは私は反対だと言う人がいました。私が知っている事を説明したら質問がきて、間伐した木はどうしてると言うから、40%で切り置きですと言ったら、それがまた前の災害のときみたいに崩れてくるんじゃないですかと。いや、そんなことはなくて、しっかりとプロがやって、絶対そんな崩れてくることはないです。災害教訓も学んでいるし、森をよみがえらせるにはこのようなことが大切なんだと言っても、私は反対ですと言う人がいて。強硬に言われたものですから、ちょっとびっくりしたんですけど。

だから、現場を知らずに、税金の使い道という意味で、強硬に反対する人がいたというのがすごいショッキングで、市民にもっと周知してもらうように、まだ努力が足りないのかなと愕然として、まだまだPRが必要なのかなと思いました。

○加藤課長

議会で問題になったのは、水道水源基金を積み立てているだけで使っていなかった部分についてです。

○小幡委員

そうなんですか。

○加藤課長

私どもも市民の方に向けてPRしておりますが、いろいろまだ理解していただきたいという人がいっぱいいます。

○小幡委員

現場を見てほしいですね。

○加藤課長

中日新聞やひまわりネットワークにも取材いただいているんですが、そういう報道機関を利用したPRが、なかなかそれほど、ご覧いただけていないみたいです。



○小幡委員

本当に何でもっと知ろうとしないのかと歯がゆい。

○小幡委員

前鈴木公平市長が言われたように、全市を巻き込んだ仕組みはすごく大切であると思ってしまうんですけど、市職員の人たちも、自分の課が森林課で出なかったら、知りませんではなくて、市の職員である限り、共通認識を持ってもらいたいなと思います。前市長も退任されてから、全然表には出ておみえにならなくて、この間の森の健康診断10周年イベントの際には出てこられるかなと思っていたら、全然見えないものですから寂しかったです。本当に、前市長の意思をみんなで引き継いでいかなければならないと思います。

○加藤課長

森の健康診断の10周年イベントには現太田市長に出席いただきました。前市長は残念ながら出席いただけませんでした。本当に森林課に対してよくしていただけていました。

○小幡委員

自分が出てくると、新しい市長の公務の妨げになるなんて思わずに、もうちょっと前面で出てきて、いろんところで布教活動じゃないですけど、そういう感じで、もっと出てきて欲しいと個人的には思いますね。

○洲崎オブザーバー

前市長の話が出たので告知ですが、第3回いなかとまちの文化祭というイベントを駅前でするんですけども、お昼前の11時半ぐらいから、「いなかとまちのシンポジウム」ということで、前鈴木公平市長と、おいでん・さんそんセンターの鈴木辰吉所長のミニ対談が予定されています。私がコーディネーターで参加しますので、よかったら見ていただければと思います。

○小幡委員

そうなんですか。私も、そこに行けば、鈴木公平前市長にお会いできることを知りましたが、だから、それもケーブルテレビ見る人だけ知っている情報かもしれないので、もっとPRして欲しいです。

○加藤課長

北岡副主幹に市内の小学校の出前講座で森林教育をして回っていただいたものですから、本当に、授業をした小学校では、かなり小学生には理解されています。

○澤田委員

ちょっといいですかね。

先ほどの蔵治先生の提案、未来の提言はすごくいいと思うんですが、提言だけじゃなく

て、具体的に実施しないとあまり意味がないと思います。例えば、森づくり委員会が中心になって、誰かが手を挙げて、私がやりますと宣言をしないと、せっかくのこれだけのいい提言が無駄になってしまう。何とかしなくてはいけないと僕は思っているんですが、どうですか。

○澤田委員

例えばとよた森づくり隊とか。具体化な提言だけではなく、一度、動いてみるのが大切だと思います。

○小幡委員

小さいグループはあるんですけど、もっと発信力があるというか、もっとネットワークにしたようなものができるといいですね。

○澤田委員

丹羽さんがやってた森の健康診断のように、10年かけてやったり、ああいう大きな組織みたいなものを。例えば、我々森づくり委員会が、もう少し前向きに進めてやってもいいかなという気がしますけど。

○加藤課長

今、貴重なご意見をいただきましたので、また次回の委員会で、そのあたりをお話しいただきたいと思います。そろそろ時間の関係もありますので、しめたいと思います。

次回ですけれども、3月ぐらいにやろうかと思えますけれども、事前に日程調整させていただきますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○蔵治委員

最後に1ついいですか。

今、澤田委員のお話を伺って思ったんですけど、矢作川森の健康診断が、10年で終わらして、森の健康診断という名前での活動はもうやらないんですけど、活動してきたメンバーは、まだ実行委員会を続けていて、これから次に何をしたいこうという議論をしている最中なんです。

その中で、例えば、豊田市の施策で、森づくり委員会、森づくり会議というのを各地域にたくさんつくられたわけなので、その森づくり会議さんの中で、例えば熱心なところがあれば、そこと連携で何かできないかとか、そういう話題は出ています。

将来的にどうなるかわからないんですけど、既に組織されてできている森づくり会議に、例えば、何らかの意向調査をして、森づくり会議で困っていることはないかとか、都市住民と連携をする気がないかとか、マッチングを図るといふことが、もし可能なら、熱心な森づくり会議さんと連携した、モデル的な取り組みというのに発展できるかもしれないという感じがあるんです。

だから、それは、豊田市がつくられた森づくり会議本来の目的とは若干逸脱しているのかもしれないんですけど、そういうようなことが可能であればいいなと思っています。最初は

アンケート調査ぐらいのレベルから始めて。

委員の中にも森づくり会議の関係者の方もいらっしゃると思いますが、せっかく森づくり会議をつくったわけだから、自分たちの森林の計画を立てるだけではなくて、都市住民との連携というような意味合いでの可能性というのも考えられるのかもしれないということをお個人的に思ってるんですけども。

それは、まだ、今現在では具体化していないので、具体的にになれば、連絡したいと思っています。

○加藤課長

貴重なご意見ありがとうございます。よい話であれば、どこか手が挙がるかもしれないです。

最後に、岡本会長、一言お願いします。

○岡本会長

今日、多忙のところ、一日ありがとうございました。今後とも森林課の取り組みに期待しておりますので、よろしく願いいたします。本当にありがとうございました。

**(閉会時間 午後4時00分)**